

薔薇に秘めた想い

『薔薇に秘めた想い』は、フランス王妃マリー・アントワネットが追い求めた美と豊かさに迫る特別企画展です。

王妃の博物蒐集家付き画家として仕えたピエール＝ジョゼフ・ルドゥーテは、精緻な植物画によって“花のラファエロ”と称賛されました。後にナポレオン皇后ジョゼフィーヌの庇護のもとで代表作「バラ図譜」を手がけましたが、ルドゥーテの才能はアントワネットが求めた美に対する豊かさにも彩りを添えていたことでしょう。

本企画展では、マリー・アントワネットの私的な宮殿として知られるプチ・トリアノン宮殿の庭園をモチーフに、ルドゥーテの貴重な作品の数々を紹介。作品を通して、華やかな宮廷生活の背後に潜む運命と歴史、そして薔薇に託された王妃の想いを感じ取っていただけたと思います。



マリー・アントワネット

(1755～1793)

オーストリア大公マリア＝テレジアの娘、ルイ16世の妃。浪費癖などで国民の反感を買い、スキャンダルも多かった。革命期には反革命派の中心とされ、恐怖政治下の1793年10月に処刑された。

「世界史用語集」

編集：全国歴史教育研究協議会



ピエール＝ジョゼフ・ルドゥーテ

(1759～1840)

13歳の頃“花の画家”ホイズムの作品と出会い、“花の絵”の世界に魅了される。その後、植物学者レリティエの提案で植物図譜制作の仕事を始めると、実力を開花。“近代バラの母”とも呼ばれたナポレオン皇妃ジョゼフィーヌからも熱烈な支援を受け、代表作『バラ図譜』〔Les Roses〕(1817-24年)を完成させる。



バラ図譜

「ロサ・ケンティフォリア・フォリアケア」の展示

マリー・アントワネットの肖像画「マリー・アントワネットとバラ」は、女流画家ヴィジェ＝ルブランが描いたロサ・ケンティフォリアという品種として知られています。今回はルドゥーテの作品の中から「ロサ・ケンティフォリア」の一種である「Rosa Centifolia foliacea/ロサ・ケンティフォリア・フォリアケア」を展示します。



書籍

多肉植物図譜「月下美人」の展示

マリー・アントワネットの幽閉中に、ルドゥーテが王妃の頼みに応えて描いた多肉植物図譜(本)の中にある「月下美人(サボテン)」を絵本とともに紹介します。この「月下美人」は、マリー・アントワネットが最後にルドゥーテへ「貴重なサボテンの花の咲くところを描くように」と命じた種だと言われています。



ユリ科植物図譜

「エピデンドルム・シネンセ」(ラン科の植物)

本邦
初公開

『薔薇に秘めた想い』では、ルドゥーテの作品の中でも希少とされる、「エピデンドルム・シネンセ」を本邦初公開します。

この作品は、「ユリ科植物図譜」シリーズのために制作した肉筆原画。1802-1816年にかけて「ユリ科植物図譜」が出版された際には、この肉筆原画をもとにした銅版画(点刻彫版法銅版画・多色刷り・手彩色仕上げ)が制作されました。ルドゥーテ本人から直接買い上げて、最初に所有していたのはナポレオン皇妃ジョゼフィーヌです。

心躍るグッズや演奏会も



チンツマグ ローゼピンク
1,925円(税込)



ギャザー・ポーチ
2,420円(税込)



グリーン
バラ図譜セクション16 ハンカチ
1,540円(税込)

チェンバロ演奏会

期間中連日(各回約20分)

●午後1時～ ●午後3時～

※観覧には、本展覧会の入場券が必要です。

マリー・アントワネットが愛していたと言われているチェンバロ。宮廷音楽の主役を担っていたチェンバロを著名音楽家が、美しい演奏を披露します。

